

経済学研究科

学位プログラム： 経済学

授与する学位： 修士（経済学）、修士（応用経済学）、博士（経済学）、博士（応用経済学）

教育目標

大阪大学および経済学研究科の教育目標を受け、学位プログラム「経済学」では以下のとおり教育目標を定めています。

博士前期課程には、経済学コース、応用経済コース、および経済制度・事例分析コースの3コースがあります。経済学コースでは、ミクロ経済、マクロ経済、開発経済、公共経済、金融、国際経済、労働経済など経済理論や計量分析を中心的なアプローチ手段とする分野と、経済史、経営史など歴史的分析を軸とする分野について、それぞれ最先端の研究成果をもとに研究者養成および高度専門的職業人養成をめざします。応用経済コースでは、政策担当機関やシンクタンクなどでエコノミストとして活躍する人材など、高度専門的職業人の養成を主たる目的とし、財政、金融、公共経済、国際経済、労働経済、開発経済、計量経済などの最先端の研究成果をもとに、経済社会を分析する能力を培います。経済制度・事例分析コースでは、高度専門職業人の育成を主たる目的とし、経済史・経営史アプローチに基づく史料調査やケース・スタディー、国際比較の手法に加え、理論的・統計的アプローチによる綿密な制度観察スキルを身につけ、世界経済の制度的発展や現状分析に手腕を発揮する人材の輩出をめざします。

博士前期課程で身につけた知識と思考力をさらに高めるために、博士後期課程が用意されています。博士後期課程は特にコースを定めず、教員の指導のもとで専門論文を作成し、学会などで研究発表し、最終的には博士論文を完成します。世界に通用する研究者の養成を主な目的としますが、職業人の知識の高度化もめざします。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

世界に通用する最先端の経済学を体系的に習得することをめざします。

○高度な教養

専門知識を実践に応用する上で必要とされる人間社会や自然界に関する幅広い教養を身につけることをめざします。

○高度な国際性

グローバル化の時代に対応できるよう、いくつかの科目は英語で行われ、外国人留学生との交流の場や交換留学制度などを用意し、それにより国際性を養い、グローバル化する経済の中で、リーダーシップを発揮して世界各地で活躍できるような能力・人材の育成をめざします。

○高度なデザイン力

未解決の問題に対して糸口を見つけ、解決までの道筋を自らのアイデアで作りに上げていくデザイン力を身につけることをめざします。

○独自の教育目標

日本や世界で生起するさまざまな経済・社会現象に関する法則を理論的、実証的、歴史的にとらえることのできる人材の育成をめざします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学および経済学研究科のディプロマ・ポリシーを受け、学位プログラム「経済学」では、博士前期課程教育を通じて所定の基準を満たす学生に、修得した専門分野に応じて、修士（経済学）または修士（応用経済学）の学位を授けます。

また、博士後期課程教育を通じて、所定の基準を満たす能力をさらに高めることができた認められる学生、または同等の学力を確認することができた者に対して、修得した専門分野に応じて、博士（経済学）または博士（応用経済学）の学位を授けます。

修士および博士の学位には、最先端の研究者として、あるいは高度な知識をもった職業人として、将来、大きな成果をあげてほしいという期待を込めています。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・世界に通用する経済学の先端知識を体系的に習得している
- ・論理的に思考する能力をもっている

○高度な教養

- ・人間社会および自然界に関する高度な教養を身につけている

○高度な国際性

- ・自国の経済・経営問題だけでなくグローバルな諸問題にも関心をもっている
- ・日本人および外国人と心を開いて対話するコミュニケーション能力がある

○高度なデザイン力

- ・未解決の問題に対して、解決までの道筋を自らのアイデアで作り上げていくデザイン力を備えている

○独自の学習目標

- ・専門知識にもとづいて現実の経済・経営問題を理解する方法を習得している
- ・自分の考えや意見を論理的に、そして説得力をもって話したり書いたりする能力を身につけている

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学および経済学研究科のカリキュラム・ポリシーを受け、学位プログラム「経済学」は以下のように多様で体系的なカリキュラムを用意しています。博士前期課程では、経済学コース、応用経済コース、経済制度・事例分析コースを設置しています。経済学コースでは、研究者養成を主な目的とし、応用経済コースと経済制度・事例分析コースでは、主として高度な知識をもち、多様な実学を社会で活用する職業人の養成をめざします。いずれのコースでも、必要な基礎知識を学んだ上で最先端の高度な専門知識の習得へと進み、得られた知識や思考法を用いて教員の指導のもとで学位論文や特定の課題についての研究を完成するという体系的なカリキュラムになっています。

博士後期課程では、前期課程で身につけた知識と思考力をさらに発展させ、教員の指導のもとで学術雑誌に掲載可能な質の高い研究論文を作成し、それらを学位論文としてまとめていくことに重点が置かれます。最先端の専門論文や専門書を読み、独創性のある研究成果を積極的に海外へ発信することを推奨しており、論文を英語で執筆して国際学会で報告し、国内外の査読付き学術雑誌に論文を投稿し、学位論文の完成につなげていきます。

また、博士前期課程・後期課程を通じて海外の大学院で勉強するための、サポート体制も充実しています。

<教育課程編成の考え方>

- ・経済学の専門知識を実践に応用する上で必要となる高度で幅広い教養を身につけます。
- ・グローバル化する経済の中でリーダーシップを発揮するために必要となるコミュニケーション能力を身につけます。
- ・経済学の基礎を学び、より専門的な科目を履修し、経済・社会現象を理論的、実証的、歴史的にとらえるための高度な専門知識と思考法を学びます。さらに、現在の経済や企業が直面する問題や最先端の研究成果を学びます。
- ・経済学の知識と思考法を駆使しながら、問題解決のための研究能力またはデザイン力を養います。

<学修内容及び学修方法>

経済学コースは、経済理論や計量分析を中心的なアプローチ手段とする分野と、歴史的な分析を軸とする分野とに大きく分かれますが、それぞれについて研究者に必要な基礎知識を学び、教員の指導のもとで最先端の研究成果をもとにする学位論文の完成を目指すという、研究者養成を主眼とする教育を実施するカリキュラムになっています。

主に高度専門職業人養成をめざす応用経済コースでも、経済学に関する高度な専門知識を習得し、得られた知識や思考法を用いて特定の課題についての研究を完成していくことのできるカリキュラムとなっています。

経済史・経営史の基礎的な知識を学ぶ経済制度・事例分析コースでも、この点に変わりはなく、経済制度や経営事例に関する知識と分析手法を得ることで、ユニークな高度専門職業人を目指すカリキュラムとなっています。

また、グローバル化に対応し、英語による授業も行っています。経営学系専攻科目や大学院横断教育科目などを履修することによって、高度な教養力も身につけることもできます。学位論文や課題研究を通じて、問題を発見し、最先端の知識を用いて解決していくデザイン力、および指導教員や学友との対話を通じて知見を深めていくコミュニケーション能力を養うことができます。

博士後期課程では、博士論文の完成をめざし、セミナーや個人指導を通じて個々の課題研究の遂行にあたって助言します。

<学修成果の評価方法>

学修の成果について、博士前期課程の講義科目では、シラバスに記載されている学習目標を、試験、課題、レポート、報告の内容、参加の姿勢などによって総合的に評価します。学位論文や課題研究につながる研究指導では、報告や議論の内容などによって評価します。

博士後期課程の講義科目や研究指導も、博士前期課程と同様の方法によって評価します。

	経済学専攻専門教育科目
	経営学系専攻、他研究科専門教育科目等

ディプロマ・ポリシーの学習目標	教育目標					1年				2年				
	専門性 と深い学識	最先端 かつ行動な	高度な 教養	高度な 国際性	高度な デザイン力	独自の 教育目標	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
(1)世界に通用する経済学の先端知識を体系的に習得している	○						基本科目							
(2)論理的に思考する能力をもっている							応用科目(高度国際性涵養教育科目)							
							展開科目							
(3)人間社会および自然界に関する高度な教養を身につけている		○					高度教養教育科目							
(4)自国の経済・経営問題だけでなくグローバルな諸問題にも関心をもっている			○				基本科目							
(5)日本人および外国人と心を開いて対話するコミュニケーション能力がある							高度国際性涵養教育科目(応用科目)							
(6)未解決の問題に対して、解決までの道筋を自らのアイデアで作上げていくデザイン力を備えている				○			研究指導演習							
(7)専門知識にもとづいて現実の経済・経営問題を理解する方法を習得している							○	専門教育科目(基本科目、応用科目、展開科目、研究指導演習)						
(8)自分の考えや意見を論理的に、そして説得力をもって話したり書いたりする能力を身につけている														

ディプロマ・ポリシーの学習目標	教育目標					1年				2年				3年			
	専門性 と深い学識	最先端かつ行動な 高度な教養	高度な国際性	高度なデザイン力	独自の教育目標	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
(1)世界に通用する経済学の先端知識を体系的に習得している (2)論理的に思考する能力をもっている	○																
						専門教育科目(学位論文指導演習を除く)											
(3)人間社会および自然界に関する高度な教養を身につけている		○															
						自由選択											
(4)自国の経済・経営問題だけでなくグローバルな諸問題にも関心をもっている (5)日本人および外国人と心を開いて対話するコミュニケーション能力がある			○														
						専門教育科目(学位論文指導演習を除く)											
(6)未解決の問題に対して、解決までの道筋を自らのアイデアで作り上げていくデザイン力を備えている				○													
						専門教育科目(学位論文指導演習)											
(7)専門知識にもとづいて現実の経済・経営問題を理解する方法を習得している (8)自分の考えや意見を論理的に、そして説得力をもって話したり書いたりする能力を身につけている					○												
						専門教育科目(全科目)											